



CONTENTS

WS Topics

未来構想PF 2023・4年度ワークショップ
第8回：最終報告会

1

VOICE

工場見学のススメ

J R東日本 高橋 俊徳

2

PF Topics

現場見学会

高輪ゲートウェイシティ（まちびらき直前の品川開発）視察

3

今月の国際比較データ

4

PF 書店／私のインフラ巡礼／編集後記

5

WS Topics

未来構想PF 2023・4年度ワークショップ
（第8回：最終報告会）

去る3月17日に最終報告会となった未来構想プラットフォーム2023・4年度ワークショップ第8回が開催されました。

今回のワークショップでは3グループに分かれて、「23区内の既存駅及びその周辺の再整備（新木場駅周辺）」という課題に対して各グループでテーマに基づき取り組んでまいりました（I G：駅周辺整備、II G：沿線まちづくり、III G：駅機能向上）。第8回となった当日は、各グループが取り組んだ成果を最終報告いたしました。各グループの最終報告に対してファシリテーターや有識者の皆様からは、「東京都の大きな課題、ウィークポイントは防災。構想の目玉として、臨海部全体の『一大防災拠点』を打ち出しては。日常的には今回の絵の実現を目指し、これに災害対応を加えてさらに現実的な絵に仕立てるとよい」、「羽田アクセスを見据え、当該エリアが生き生きとする提案で、深く分析していただいた」、「新木場を放っておくとバラバラと開発が進んでしまうことに對し、それでいいのかと行政に考えてもらうきっかけとしたい」など数多くの意見が出され、活発な議論が交わされました。3グループの具体的な成果につきましては、今後の未来構想PF通信にて紹介させていただきます。3グループのメンバーの皆様、長期間にわたる活動、大変お疲れ様でした。



私のインフラ巡礼



～目黒新橋～
桜の名所・目黒川に架かるRC開腹アーチ橋
（J R東日本 谷澤 寛さん）

未来構想PFのホームページ
（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



最終報告会の様子



VOICE

工場見学のススメ

J R東日本 高橋 俊徳

1. はじめに

私は縁あって昨年2024年6月から新潟の現場を担当させていただいています。業務についての執筆も考えたのですが、今回は新潟生活の気づきについてお話させていただこうと思います。

初の関東以外の都市での生活だったので、日々の大小に新鮮な驚きを感じていました。小さいところでは、テレビでパチンコをはじめとするとご当地CMや新潟に特化した細かなエリアごとの天気予報に衝撃を受けたり、雨の多さや時々的大雪を経て地元の方の知恵（スノーブーツ等の対策や雪かきの仕方）を学んだり。ほぼ新潟にしか出回らないいちごに出会うこともありました。また、その道路の広さ、自動車交通量の多さから、少し古いですが平成27年の交通量調査ベスト10のうち2、3、7位に新潟市内の道路がランクインしていることにも驚きました。

少しずつ新潟の生活にも慣れてきたところで、最近ではせっかくだから、と、時間を作って新潟の名所を満喫しています。温泉、グルメスポット等回っていますが、コロナ禍中は受け入れ停止していることが多かった工場見学もこのところ再開しているところが多く、楽しんでいます。お菓子や日本酒・ワイン、製品と多岐にわたりますが、先日久しぶりに燕三条の包丁工場の工場見学に行き、刺激を受けてきましたので、包丁工場含め工場見学についてお伝えしたいと思います。

2. 工場見学

多くの業態で工場見学が行われていますが、私が行きはじめたのはワイナリーやお菓子が最初だったと思います。関東にいた時から崎陽軒やアサヒビール、グリコ等に行きました。ここでは新潟で訪れた中で印象に残った2か所についておススメしたいと思います。それぞれの産業が盛んになった由来についても調べてみました。

① 魚沼の里（日本酒「八海山」醸造元が運営する観光スポット）

新潟を語る上で外せないのが日本酒。県酒造組合によれば米、高い

山々からの雪解けの軟水、日本で唯一の酒蔵中堅技術者を養成する新潟清酒学校を設立するなどの人財育成等さまざまな要素がそのおいしさを作り上げているそうです。そんな日本酒の代表的な銘柄「八海山」の酒蔵が運営する「魚沼の里」。レストランやクラフトビール醸造所があり、加えて「雪中貯蔵庫見学ツアー」を体験することができます。

雪中貯蔵庫とは雪国では1,000年以上前から続く「雪室（ゆきむろ）」という天然の冷蔵庫を利用した設備。多いときには積雪が高さ3メートルを超える日本有数の豪雪地帯の魚沼では、雪を貯蔵して天然の冷蔵庫として活用しています。ご参考まで、この施設では雪室で貯蔵した日本酒の試飲ができます。



埃で黒ずんだ雪室



3年貯蔵日本酒

② 藤次郎オープンファクトリー（包丁工場）

新潟県随一の金属加工技術の集積地、燕三条。金属を熱するために必要な材木などの材料に恵まれ、江戸時代を通して燕と三条で和釘作りが盛んに行われるようになったことがルーツとされています。その後明治時代に輸入品に押されると洋食器、軍需品といった金属加工が盛んになり今に至っています。そんな燕三条で包丁づくりを行っている「藤次郎」の工場見学に行ってきました。職人さんから話を聞きながら、鋼材を熱してハンマーでたたき包丁の形を作る「鍛造」の様子を見ることができました。

リズムを刻みながら魔法のように形作るさまは一見の価値があります。その場で包丁は買いませんでしたが、包丁を使うたびに思い出し、以前より大事に使っている気がします。なお、この時に職人さんと盛り上がり、記念に包丁形の名入りのキーホルダーを作っていました。（次頁に続く）



包丁の形を作る様子



名入キーホルダー



3. おわりに

工場見学をいくつも体験している私が心掛けているのは、説明してくれる人となるべくコミュニケーションを取ることです。説明を受ける側の人数が多かったり、時間が短かったりすることもあり、いつも出来ることではありませんが、会話のキャッチボールの中に思いがけない日常のヒントが隠されていることもあります。

その土地ならではの産業の成り立ち、職人のこだわりを学ぶことで、その土地を理解し、その上で作られたものに今以上の愛着を覚え、大事に使うことにもつながります。

これからも多方面に興味を持ってたくさんの工場を訪れたいと思っています。ここは良かった！というご経験をお持ちの方からの情報をお待ちしております。

PF Topics

現場見学会

高輪ゲートウェイシティ（まちびらき直前の品川開発）視察

2025年3月14日（金）、高輪ゲートウェイシティ（まちびらき直前の品川開発）の見学会を開催しました。2023年3月の品川開発見学会から2年ぶりとなる品川エリアでの見学会で、21名の参加者により実施いたしました。

当日は、高輪ゲートウェイ駅へ集合。Tokyo Yard Building内で動画や縮尺模型にて開発計画の全体像のご説明を頂いた後は、数日後にまちびらきとなるTHE LINKPILLAR 1を視察。THE LINKPILLAR 1 SOUTH 16階からは、線路群の向こうにレインボーブリッジが臨め、飛行機が飛び交い、モノレール・ゆりかもめが運行する快適な眺望となっていました。また、天井が高くMICEに相応しい機器を備えた先進的な空間であるコンベンションセンターや企業向けスペースで専門家の支援を受けられるTHE LINKPILLAR 1 SOUTH 9階のさまざまな業種の企業やスタートアップ、アクセラレーターが集うコワーキングスペースを備え、アカデミア、弁理士、弁護士、税理士などの専門家の支援を受けられるTAKANAWA GATEWAY Link Scholars' Hubなどを視察しました。後半は工事現場内に入場し、道路桁の送り出しが進行中の環状4号線や品川駅北口広場整備、さらには北口駅改良等を見学しました。

今回も鉄道用地跡の再開発にとどまらず、周辺開発との関係や交通ネットワークの整備等、様々な切り口でご説明を頂き、大変実りの多いイベントとすることが出来ました。また終了後は有志13名にて意見交換会も実施、情報交換とともに旧交を温めるなど、盛会となった次第です。

今回の見学会にあたっては、JR東日本マーケティング本部まちづくり部門の岡田マネージャー、品川・大規模プロジェクト推進部門の甘粕マネージャー、東京建設プロジェクトマネジメントオフィス・品川プロジェクトセンターの田中センター長をはじめとした多くの皆さまにお世話になりました。

紙面をお借りして、改めて感謝と御礼を申し上げます。



THE LINKPILLAR 1 SOUTH 視察の様子



品川駅北口広場整備 視察の様子



集合写真



今月の国際比較データ



●消費者の値上げ耐性の国際比較

わが国では長いデフレが終了し、値上げラッシュの日々が続いていますが、人々の消費行動は一般にインフレ予想と強くリンクしていることが知られています。日本では2022年春にインフレ予想が大きく改善しましたが、このインフレ予想の変化は消費者の行動をどう変えたのでしょうか。今月のPF書店でも紹介している『物価を考える』（渡辺努）に興味深い消費者の値上げ耐性の国際比較がありましたので紹介いたします。商品が値上げされているのを見たときに各国の消費者がどう反応するかの調査結果です。具体的には「いつも行くなじみのスーパーで価格が10%上がっているとしましょう。その時にあなたはどうしますか？」という質問をした回答結果です。過去の調査では、日本と欧米の消費者で回答に大きな差がありました。欧米の消費者は「高いのは嫌だけど、仕方ないのでその店で値段の上った商品を買う」と回答するのが典型的でした。一方、日本の消費者はなじみの商品が値上げされているのを見ると、「値上げした店では買わずに違う店に行く」という回答が典型的でした。これは、「他店に行けばきっと元の安い値段で売っているだろう」と日本の消費者は信じていたからで、なぜそう信じているかと言えば、物価は据え置かれているのが当たり前という頭があるからとのことです。これに対して、欧米の消費者は、そもそも物価は上がるものだと思っているので、「この店で価格が上がっているということは、他の店でもきっと上がっているだろう」と想像し、他店に行くのは無駄足になる確率が高いので、その店で高くなったその商品を買うという行動をとるとのことです。ところが、2022年の調査で日本の消費者の値上げ耐性に大きな変化が表れました。理由は日本のインフレ予想が上がったためで、日本の消費者も欧米の消費者と同じく、物価上昇はやむを得ないと考え始めるようになったことがわかります。

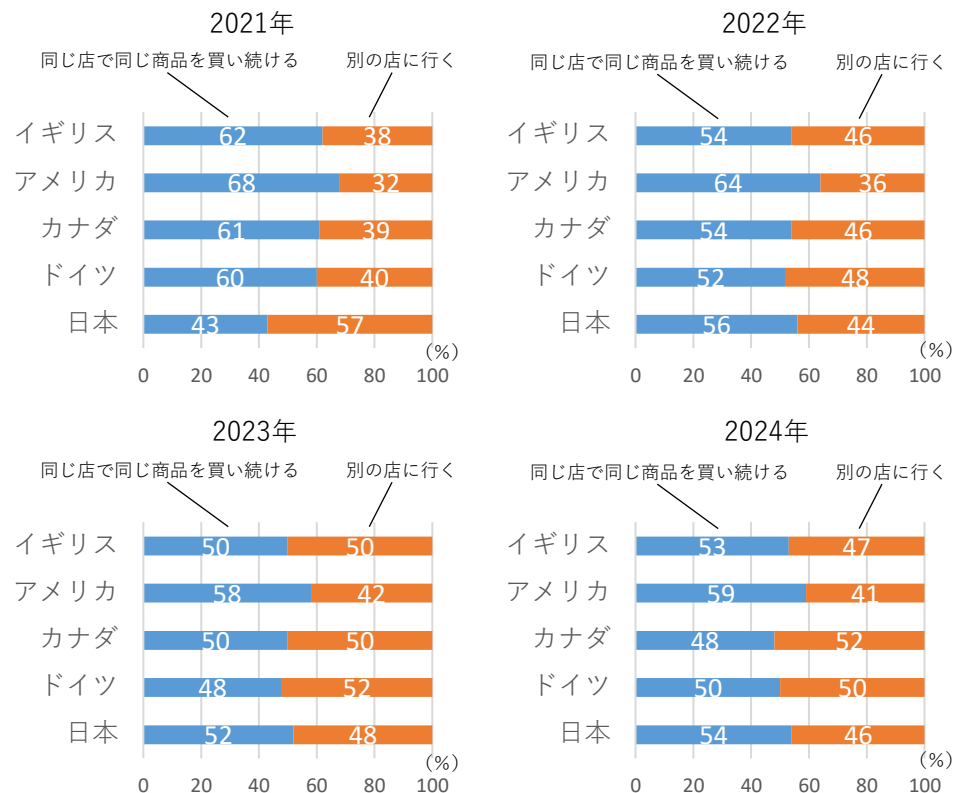


図 スーパーでなじみの商品の価格が10%上がったらどうしますか？

(出典) 「物価を考える」 (渡辺努) p113 図2-12

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！



私のインフラ巡礼



「目黒新橋」(東京都目黒区)

① 物価を考える (渡辺 努 著 日本経済新聞出版)

このところ急に値上げラッシュな世の中が変わってきているが、そのような時にこそ正しい物価について理解しなくてはならない。その際に役立つ一冊が『物価を考える』である。インフレはなぜ始まったのか、デフレはなぜ終わったのか、という問いを著者は立てており、ガリガリ君や鳥貴族の値上げが衝撃的であったと問いを立てた背景として述べている。わが国では、なぜ企業は価格を据え置き続け、なぜ労働者は賃上げを求めなかったのか。「屈折需要曲線」や「賃金・物価スパイラル理論」などの理論で説明してくれる。

② Y字路はなぜ生まれるのか？ (重永 瞬 著 晶文社)

冒頭の写真の中の一つに見慣れた大久保駅南口を出て直ぐのY字路の写真があって嬉しい。マニアックなY字路について力説している『Y字路はなぜ生まれるのか？』。さまざまな街の事例やパターンに触れながら楽しくY字路を解説する。路上、地図、表象という3つの視点からY字路を紹介し、路上からは角地の利用が、地図からは形成過程が、表象からは象徴性がそれぞれ見えてくるという。そして有名な横尾忠則は「Y字路はフォルムだ」と訴える。神田の街のように鉄道が強制的に多くのY字路を産み出した過程も面白い。

③ 大人の東京ひとり散歩 (鈴木 伸子 著 大和書房)

「東京人」の編集者だった鈴木伸子の『大人の東京ひとり散歩』。神楽坂、銀座、神保町、新宿など都内の由緒ある街を散歩して名所を巡る楽しいエッセイ。著者曰く、「ひとりで歩くと、ひとりだからこそその街の見え方、見つけられるもの、体験できることがあり、そして、自分自身との対話もできるという効用がある。ひとり散歩は、より街に集中できる。見えてくる景色も、そして体験さえも、誰かと一緒に歩く散歩とは全然別のものになるのである」と。この本を読んで東京の様々な街をひとり散歩の旅に出掛けたいと思った。



桜の名所、目黒川に架かる橋です。目黒駅から徒歩5分の位置にあり、馴染み深い方も多いかもかもしれません。1933年(昭和8年)に架けられたRC開腹アーチ橋で、近代土木遺産にも指定されています。

この地に最初に架橋された時期は不明ですが、江戸時代初期(延宝年間)には既に橋が架けられていたことが確認されています。一説によれば、地元の名主、菅沼権之助が、急坂の行人坂で荷を運ぶ人が苦勞しているのを気の毒に思い、緩やかな坂を開き、その道筋の目黒川に架かる橋が新橋と名付けられた、とのこと。その後、権之助は幕府に無断で道を開いたことを咎められ刑死した、とも伝えられています。人々の生活向上と交通インフラ整備のために命を賭した彼の功績は、今も「権之助坂」、「目黒新橋」という名で語り継がれています。

(J R 東日本 谷澤 寛さん)

編集後記

4月に入り、スギ花粉の飛散も落ち着き、花粉症もピークアウトとなりました。しかしながら個人的には带状疱疹を患い、憂鬱な年度終わりと、年度初めとなりました。皆様、健康に留意して新年度をお過ごしいただければと思う今日この頃です。(T.E)

